

新・歴史の見える風景

福井電話局

(福井郵便局電話事務室)

戦災の悲劇と震災にも耐え、通信インフラを担う



福井市に電話が開通したのは、明治36年7月で、当時の加入者は約200名であった。通話区域は市内に限られたが、39年には金沢、41年には東京など主要都市への長距離電話も開通。県内各地との通話も、大正はじめには利用可能となった。

当時の電話機はダイヤルがなく、受話器を上げると電話交換局に繋がりを、電話交換手が手動で、電話回線を相手の電話回線に接続していた。

当時電話は通信省の所管で、電話交換局は郵便局に併設されていたが、福井郵便局（当時は九十九橋北詰に在った）では局舎が狭隘となつたため、新たに佐佳枝上町（映画館

テアトルサンク南、中央1-17-26)に、電話業務を担う独立局舎「福井郵便局電話事務室」を建築することとなった。起工は昭和4年6月で翌年11月に建物は完成している。

デザインや設計は通信省官繕局で、半地下1階、地上2階建て（一部3階）で飛鳥組が施工した。基礎工事は東京中央郵便局と同様にコンクリート・ペDESTAL杭打を施し、デザインは通信省独特の様式、また1階外壁は黒褐色のタイル張り仕上げであった。

設備工事では、交換設備を従来の磁石式から共電式へ改式、電話機の交換も加えると建物建築費の2倍の



福井郵便局電話事務室竣工記念絵はがき



昭和6年竣工当時の全景



移転した戦災慰霊観音像 NTT 西日本福井大手ビル

投資額となり、昭和6年10月18日全工事が完了、業務開始となった。

新局舎は、福井空襲では悲劇の舞台となった。昭和20年7月19日深夜、集中爆撃で市内2万戸以上が焼失、死者数も1600人に達した。郵便局電話分室では、「通信業務死守」の使命感もあり、20人の女子交換手と救援の警防団員3人が犠牲となるなど人的被害が大きかった。後に慰霊のため、局舎の中庭には観音像が、有志や遺族の手で建立されている。

この空襲と、更に昭和23年の福井大地震で、建物は2回にわたり猛火に包まれたが、倒壊を免れ、改装され、戦後も福井電話局、電報局とし

て重要な通信インフラを担った。

昭和35年5月、市役所前（大手町）に、新局舎として電電ビルが建築され移転した。これにより北陸初のクロスバー式自動交換局となり、その規模は当時日本最大であった。旧局舎は市外専用電話局となり、これが電電ビルに移転統合するのは昭和62年で、旧局舎は解体された。

旧局舎の中庭に設置されていた戦災慰霊碑「観音像」も、電電ビルに移転。さらに平成7年には観音堂も建てられ、現在もビルの北東角交差点に祀られている。電電ビルはその後NTT西日本福井大手ビルとなり現在に至っている。(文 奥山秀範)